追悼号：升島努教授の思い出

升島先生との思い出

中村健道

Takemichi NAKAMURA

理化学研究所環境資源科学研究センター 分子構造解析ユニット

先生のenthusiasticなお話を、もう二度と聞くことができないことは何という寂しさだろうか…。

初めてお目にかかったのは、確か1990年代の終わり頃、分析化学系のいずれかの学会であったように思う。「ビデオマスコプ」の構想について、ポスターを前にしながら熱く語ってくださった先生のお姿を、今でも生き生きと思い出することができる。その後、各所の学会等で何度かお目にかかったが、親しくお付き合いをさせていただくことになったのは、2007年5月の広島での総合討論会のお手伝いをさせていただくことになったのがきっかけであった。2006年初め頃に、質量分析分野の多様化とさらなる活性化の一環として、各方面で活躍されている著名な先生方にも運営面でご協力を仰ぐ、という学会委員会の動きがあった。その流れの中で、半ば強引に(?) 升島先生に実行委員長をお願いしたような経緯ではなかったかと思う。もとより分析化学会の重鎮であられ、他の大きな学会等でも多くの経験をお持ちの先生にとって、総合討論会の企画運営などいとも簡単な仕事であったであろう。快くお引き受けくださったが、総合討論会自体は過去に何度か参加されていた程度で、それまで質量分析学会自体の運営等にも特にかかわってこれなかったことから、運営実務や財務に関する学会委員会とのすり合わせのお手伝いのため、たまたま当時「討論会パッケージ化」と学会会計を担当していた小生を実行委員会の末席に加えることとなった。実際には升島先生を中心として、泉先生をはじめとする広島の強力なチームが丸となって準備、運営を行ってくださり、小生ごときが「お手伝い」させていただくことも特になかったのだが、「お手伝いなんてダメです、一緒にやりましょう！一緒に楽しくやりましょう！！」といつもおっしゃられ、私をはじめ現地以外から加わったメンバーに花を持たせて招待演者の推薦等、楽しいことばかり担当させてくださった。無論、本会初めての広島開催ということで、陰でいろいろ細かなご苦労も多かったはずだが、そのようなことはおくびにも出さず、ご自分たちは完全に裏方に徹し、皆が楽しくやりやすいようにさりげなく気を遣ってくださる先生の優しいお人柄には、本当に頭が下がる思いであった。

広島討論会では大勢の外国人演者を招いてくださった。これが数年後のアジアオセアニア会議の成功につながる一つの大きな布石となったように思う。バイタリティーあふれる先生のアイディアとホスピタリティーで「お好み焼きテーマパークツアー」や「宮島クルーズ」などのソーシャルプログラムも実現し、質量分析学会を国外からの参加者にもとても強く印象づけていただいた。学術面においては言うまでもないが、そのようなところでも学会の国際化に大きく貢献され

IMSC Kyoto 2012にて、Zenobi氏、Shin氏とくつろがれる
(撮影：阿久津弘明氏)

第63回質量分析総合討論会（つくば2015）特別講演（撮影：阿久津弘明氏）

連絡先：takemi@riken.jp

た。もう一つ、この討論会で強く印象に残っているのは、先生の若手育成への熱い思いである。従来のポスター賞を優秀論文賞に発展させ、見識豊かな審査員を事前に選定して審査いただくことで賞の内容の充実を図ると同時に、会の終了までに迅速に集計して大勢の前で表彰を実施することによって若手をencourageする、という先生の明確な企画意図のもとで、実行委員は手分けして準備すると同時に審査員の先生方にも無理を承知で迅速かつ厳正な審査への協力をお願いした。これが実現したのは先生の情熱と、類まれなる求心力のおかげであり、以後の討論会への良き前例となったものと思う。広島討論会では完全に裏方に徹しておられた先生であったが、無論、学問的分野での活躍は目覚ましく、永年の夢であられた一細胞質量分析の完成に向け、着々と仕事を進められていた。当時、広島の研究室、後年には大阪のラボにもお邪魔させていただき、「一緒にやろうよ！一緒に楽しくやりましょう！！」と、私自身も、何度も暖かいお誘いと励ましをいただいた。是非よろしく、とお答えしながら、ひたすら私自身の怠慢と力不足のため、いろいろ教えていただくばかりで何一つ結果をお返しすることができずについにその機会を失ってしまったこと、今はただ、忸怩たる思いである。

ご承知のとおり、先生は以後、一細胞質量分析で目覚ましい業績を上げられ、各所で引っ張り尻となって大変お忙しいときを過ごされたようであったが、その間、知らぬ間にお体に負担がたまり発病に至られたのではないかと想像すると、暗然たる思いである。大変ご多忙であることを承知のうえで2015年の総合討論会では技術賞受賞講演に加えて特別講演までお願いしてしまった。ご快諾くださり、いつもと同じ、若手・後進への励ましと示唆に富んだお話をお聞かせくださったのが、私にとっては先生のご講演を拝聴する最後の機会となってしまった。その後、何度かお目にかかる機会に恵まれ、そのたびに、大変な闘病の辛さがおありだったろうが、optimisticにいつも明るく「元気になりました！もうすぐ復帰しますから、また一緒に楽しくやりましょう！！」とこちらが励まされるようなお言葉をかけていただいた。悲しく、やりきれない思いである。もう、お目にかかれなれないということはひたすら残念でならないが、先生の明るい笑顔と励ましの言葉は、これからも皆の心の中に生き続けるであろう。

謹んでご冥福をお祈り申し上げます。